

平成25年度 大学職員情報化研究講習会 ～基礎講習コース～ 開催要項

<http://www.juce.jp/kenshu/kisoko2013/>

主催：公益社団法人私立大学情報教育協会 大学職員情報化研究講習会運営委員会

開催趣旨

本協会では私立大学における職員の職務能力の開発・強化を支援するため、主体的な学びを促す教育環境の工夫等、情報通信技術（ICT）を活用した大学改革の基盤づくりについて認識を深めることを目的として研究講習を実施しています。

本コースは、参加者が ICT 活用の可能性や工夫について基礎的な理解を深め、大学の管理運営や教育活動の充実に向けて主体的に取り組む考察力の獲得を目指します。

1. 本コースのねらい

開催趣旨に基づき、参加者が次のような成果を修得することを目指します。

- ① ICT の活用が大学の管理運営、教育活動の充実に果たしている役割を認識する。
- ② 業務改善に ICT を積極的に活用する姿勢を身に付ける。
- ③ 目的達成のために、ICT の可能性や工夫について考察できるようにする。

2. 対象者：私立大学・短期大学に所属する職員

（勤務年数の浅い方々や他業種からの転職者で、当協会への加盟・非加盟は問いません。）

3. 日程：平成25年7月17日(水) 12時45分 ～ 19日(金) 正午解散

4. 会場：浜名湖ロイヤルホテル（静岡県浜松市西区雄踏町山崎 4396-1 ☎053-592-2222）

- * 本研修は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。
- * 原則1部屋2名で、部屋割りは当方で行います。健康管理については十分ご注意ください。
- * シングル利用での希望を受け付けますが、先着30名までとさせていただきます。
- * 最寄り駅 JR 東海道本線「舞阪」駅（浜松駅より約5分）より送迎バスを用意しております。

5. 募集定員：200名

6. 参加費：加盟校・・・1名につき30,000円／非加盟校・・・1名につき60,000円

参加費の支払い方法は、「8. 参加費の支払い」をご覧ください。その他に、宿泊費（2泊5食付）として27,500円を1日目受付時に直接ホテルへお支払いください。または、シングル利用の場合、宿泊費として33,500円をお支払いください。

7. 申込方法

各大学で参加者を取りまとめ、7月9日(火)までに、Web サイト、もしくは、本開催要項添付の「参加申込書」に記入いただき FAX で申し込みください。参加申込者についての必要事項は必ず全員分記入してください。締切日以降も定員に余裕があれば受け付けますので、お問い合わせ下さい。

Web： <http://www.juce.jp/kenshu/kisoko2013/> FAX：03-3261-5473 Tel：03-3261-2798

8. 参加費の支払い

参加費は、大学ごと一括して7月12日(金)までに銀行振込によりお支払いください。

<振込先> りそな銀行 市ヶ谷支店 普通預金口座 口座番号：0054409

名義人：私情協 シジョウキョウ

- * お願い：振り込み名義に「k25」の記号を追記願います。
- * キャンセルの場合は7月10日(水)までにご連絡いただければ振り込み手数料を差し引いた参加費を返金します。それ以降のキャンセルは、資料代等の実費を請求します。
- * 当日のキャンセルは、ホテルのキャンセル料が100%発生しますのでご了承願います。

9. プログラム概要

第1部では、研修を進めるにあたり必要となる、大学を取り巻く環境、大学改革や大学教育の質的転換の必要性、情報通信技術（ICT）活用の意義などについて、基礎的知識や情報を提供するとともに、課題の共有を行います。

第2部では、自らがどのように教育改革や大学改革に関与すべきか、対話と議論により望ましい改善案の提言作りを通じて、主体的な考察力、イノベーションに取り組む姿勢の獲得を目指します。

第1部

（1）イントロダクション「大学を取り巻く環境、本研究講習会のねらい」

木村 増夫氏（学校法人上智学院理事長付主幹、運営委員会委員長）

大学教育の質的転換なくして国・社会の発展が考えられないという危機意識を共有し、職員一人ひとりが主体的な学びの環境作りに関与していくことの重要性を意識啓発します。

（2）情報提供1 「教育の成果を公表する社会的責任とICT活用」

石井 博文氏（芝浦工業大学理事室部長）

大学が社会的責任を果たすために構築する教育情報の役割及び戦略的活用について基礎的な理解を得ることを目指して、大学として公表すべき情報の範囲と内容を確認し、最適な情報を学内組織の中でどのような方針及び仕組みで構築することが望ましいか、事例を踏まえて習得します。

（3）情報提供2 「学士課程教育の質的転換を図るICT活用の学修環境の考察」

教育の質的転換に求められる学修環境として、教室外での事前・事後学修を実現する学修支援システムの機能と運用・利用上の課題、教育の質保証を点検・支援する学生カルテシステムの効果及び課題について整理・確認し、教育改善にICTを活用することの重要性と可能性について理解を深めます。

① 学修支援システム（LMS）を活用した主体的な学修環境の構築

吉田 浩史氏（京都産業大学情報センター課長、大学職員情報化研究講習会運営委員会委員）

② 学生カルテを利用した個別指導の効果

中田 美喜子氏（広島女学院大学生活科学部生活デザイン・情報学科教授）

（4）全体討議 「大学改革の推進に求められる大学職員の役割と情報の戦略的活用」

イントロダクションと情報提供を踏まえて、ICTを活用して教育改革及び業務改革に関与することの重要性と主体的な取り組み姿勢への気づきを共有します。

第2部

グループ討議

大学改革や主体的な学修環境を構築するにあたり、職員各自が果たすべき役割や、それを実現する手段として ICT を活用する意義、重要性について、グループ討議により確認、共有し、教育活動や大学の管理運営のイノベーションの実現に向けて ICT を活用した望ましい改善策の構想作りを行います。

ステップ1 気づき、発見の時間 1日目 16:30～17:15

第1部（イントロダクション～全体討議）を受けて、大学改革の必要性、職員に求められる能力、ICT を活用して教育改革及び業務改革に関与することの重要性と主体的な取り組み姿勢について、各自がどのような“気づき”を得ることができたか、グループ内で発表し、共有します。

ステップ2 討議と成果のまとめ 2日目 9:00～17:30 3日目 9:00～9:50

教育活動や大学の管理運営のイノベーションに向け ICT を活用した望ましい改善策の構想作りについて、午前と午後に分けてグループ討議を行います。その際、グループ討議の成果を自己点検・評価できるようにするため、以下の「到達度評価項目」のチェックシート※を用いて確認します。

ステップ3 発表会と意見交換 3日目 10:00～11:30

グループ討議の成果発表、グループ間での相互評価、意見交換を行います。

ステップ4 省察（アンケート記入） 3日目 11:30～12:00

各自、グループ討議、発表会・意見交換会を踏まえて、省察を行う。

最後に参加者アンケートを記入・提出する。

※ 到達度評価項目

問題解決において求められる主要な能力を到達度評価項目として設定し、グループ討議における自己の関与を基に、自己評価により到達度を確認します。

- ① **課題発見能力**：大学が抱える諸問題について、その本質的な課題を探るため、多様な観点から事象を分析しようとする態度を持つ。
- ② **創造的思考力**：課題解決を図るため、積極的にアイデアや意見を述べて、創造的な議論を促そうとする態度を持つ。
- ③ **コミュニケーション能力**：他のメンバーの意見やアイデアを尊重し、議論を発展させるためにお互いに協調しようとする態度を持つ。
- ④ **スキルを使う姿勢と態度**：討議を通じて学んだ成果を認識し、これを常に磨きながら、自身の大学の教育改善に使おうとする態度を持つ。
- ⑤ **プレゼンテーション能力**：グループでの討議内容を他のグループに分かりやすく伝えるため、相互に協力しながらスライドを作成する。
- ⑥ **発展的思考力**：質疑応答や他グループの発表から、新たな着眼点や改善点を発見して、それを相互のブラッシュアップにつなげようとする態度を持つ。

事後研修

グループとしての研修報告を A4 で 2 枚にまとめ、発表スライドを添付資料として 8 月 2 日（金）までに提出する。 提出先：kisoko2013@juce.jp

		9:00	グループ討議 ステップ2	9:00	グループ討議 ステップ2 (成果のまとめ)
				9:50	休憩
		10:30	(適宜休憩)	10:00	グループ討議 ステップ3 (発表会、意見交換)
				11:20	休憩
				11:30	ステップ4 省察
				12:00	アンケート記入 (解散)
12:00	受付	12:00	昼食		
12:45	オリエンテーション				
13:15	開会挨拶 イントロダクション	13:00	グループ討議 ステップ2		
14:00	情報提供1				
14:45	休憩	15:00	(適宜休憩)		
15:00	情報提供2				
16:00	全体討議	16:00	グループ討議 ステップ2 (成果のまとめ)		
16:45	グループ討議 ステップ1				
17:15	チェックイン・休憩	17:15	休憩		
18:00	夕食・懇親会	18:00	夕食		
		19:00	グループごとに自主研修		
19:30	フリーディスカッション				

参考：参加者の声
平成 24 年度アンケートより抜粋

- ・ 決められた課題に答えはなく、グループのメンバーで共に創造していく過程は、日々の業務面に通じて役立つものであった。(20代 A 班)
- ・ グループ討議において日々の業務では日常に埋もれていしまっている課題を多く発見でき、課題解決のためにはどうすれば良いか考え抜くという貴重な体験ができた。(20代 A 班)
- ・ 大学や教育の現状や課題について考えさせられる機会が多くあり、職員としての自覚や責任を再認識した。(30代 A 班)
- ・ 他大学の参加者と協力し合って取り組んでいく中、自らの欠点や今後どのように仕事を進めるべきか改めて気づきが得られた。(20代 A 班)
- ・ 社会の大学に求められることが多様になっており、それに応えていくために ICT を上手に利用して効率的に公表することの大切さを再認識した。ただし、ICT はあくまでツールなので、根幹をしっかり考えることが大切であることも同時に学んだ。(30代 B 班)
- ・ 様々な気づきから考え方・意識が変わり、職場での取り組み方や行動が変化し、必ず結果を変えていける基盤ができたことを感じた。(20代 B 班)
- ・ 社会的要請が大学に対して強まっている中、状況に敏感になりながら建学の精神を忘れないことの重要性を感じた。(20代 B 班)
- ・ 自大学に得たものを持ちかえり拡散し、若手で研究グループを作りたいと考える。(20代 B 班)
- ・ 意見をまとめる力、自らの意見を多数に伝える力が身に付き、自大学での委員会等への積極的な参加に繋がる。(30代 C 班)
- ・ 情報交換の場、横の繋がりの場としてとても良い研修だった。(20代 C 班)
- ・ 受け身ではなく主体的に取り組めるカリキュラムになっており充実した 3 日間を過ごせた。(20代 C 班)
- ・ 情報という言葉に拒否反応すら持っていたが、思い切ってこの研修に参加して ICT や情報というものを身近に感じることはできた。(20代 D 班)
- ・ 多くの職員と知り合うことで、情報だけでなく新たな考え方や多視点に触れたり得るものが多く、職員としてあるべき姿や今後の課題が見え、これを活かして自己研鑽に励みたい。(20代 D 班)
- ・ 学生の成長度を ICT により可視化することで学生の気づきを促し、学修意欲の向上に役立てることは非常に重要であることを学んだ。(30代 D 班)
- ・ こういった双方向の研修は、今後の業務やこれからの大学教育の場で活かしていけると思う。(30代 E 班)
- ・ 自らの仕事においてエキスパートになるのは当然だが、他部署や大学全体を通じての動向について常に勉強していく姿勢は持ち続けたい。(20代 E 班)
- ・ 危機意識を共有しているからこそ議論も深まっていくのであり、今後もこの講習会で築くことができた横の繋がりを大切にしていきたい。(30代 E 班)
- ・ 他部署の参加者との意見交換で、専門分野を超えた広い視野の意見を取り入れることができ、自発的行動の重要性を認識することができた。(20代 F 班)
- ・ 協働して一つの目標に向かって議論を重ねた貴重な機会であり、この成功知を自大学に持ち帰り大学の活性化に繋げたい。(20代 F 班)
- ・ 自大学のシステムが当たり前と思わず、現状を把握して本当に必要とされているものは何か真実を見極め、考え、行動に移すことが重要である。(20代 F 班)
- ・ グループで日頃から課題に思っていることについて、自由に議論することができ、多角的な意見を聞けてとても良い経験になった。(20代 F 班)
- ・ 職員が教員に率先して改革を促すこと、高い意識や知識を深めて根拠を持って説明する力が必要とされる。(20代 F 班)